

キャラクター名
吉上 秀人

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ウロボロス		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	ヒーロー
	オプション		年齢	不詳	性別	男
覚醒	感染	衝動	妄想	初期侵食率	38	%
出自	姉妹	経験	古強者	邂逅	主人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	3	1	0			4	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	5
精神	3	0	0			3	戦闘移動	10
社会	1	0	0			1	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	2	
運転:	7		芸術:			知識:	1		情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
チャリオットバラー[スレイブニール]	運転	4r+7		13		装甲値:6 行動-1

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
チャリオットバラー		6	0	-1	

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:情報屋	
パワーソース:ピサイド	
ヒーローズクロス	
メモリー:妹	
メモリー:霧谷 雄吾	
メモリー:	

合計装甲: 6 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
Dロイ:遺産継承者[チャリオットバラー]	P	N		
D:怪人	P	N		
	P	N	不安	
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:サラマンダー	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値 -lv								
原初の赤:巨匠の記憶	1	3	メジャー	-	-	-	-	
効果: <運転:> <芸術:> <知識:> <情報:>のダイス+Lv								
炎神の怒り	2	3	メジャー	-	-	-	-	
効果: ダイス+[Lv+1] HP-3								
クロスバースト	3	4	メジャー	-	-	対決	80%	
効果: 攻撃力+[LV*4] ダイス-2								
灼熱の砦	3	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 攻撃力+[Lv*3] 戦闘移動を行った場合使用不可								
オリジン:ヒューマン	1	2	マイナー	至近	単体	自動	RB	
効果: 達成値+Lv								
極大消滅波	5	4D10	イニシアチブプロセス	視界	範囲(選択)	自動	120%	
効果: 対象に[Lv+2]D点のHPダメージを与える								
氷熱の軍団	5	10						
効果:								
原初の黒:力の法則	3	6	オート	視界	単体	自動	100%	
効果: ダメージ+[Lv+1] 1ラウンド1回 侵蝕率+3								
戦術	5	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果: 対象がこのラウンド中行うメジャーアクションのダイス+LV								
炎の理	★	-	メジャー	至近	参照	自動	-	
効果: 炎を作り出す <RC>で判定								
異形の痕	★	-	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 片方の眼孔に眼球が入ってない								
効果:								

合法おっさん
眼帯
ツンデレおっさん

覚醒はいつだったか。もう覚えていない
確かにわかることは遙か昔だということ。すべての始まりはあの【知恵と知識の泉】だ

UGNの一支部を任されているオーヴァードの男性、その正体はとある「伝説」を基盤とするとされるレネゲイドビーイング
その覚醒は遙か大昔、伝説が伝説となるより前
とある「泉」が、無名の男にもたらした
1度目の覚醒はその時、その瞬間、無限の知恵と知識と右目を代償に無名の男はオーヴァードとなった
男は自分の村に戻り人々に知恵と知識を与え、「火」を齎した
男が神として崇められるのに時間はかからなかった
が、代わりに破壊も早く訪れた
ある村人の行動が男を「化物」に陥れた
男は住処を焼かれ、深く傷つき、ただ一人の肉親である妹ですら殺された
消えゆく意識の中、小さな洞窟で出合いを果たす
それは巨大な岩石なようでもあったが、触れれば冷たく、ほこりをかぶったその表面を撫でればその奥に光沢を宿す
それが何なのか、その時の男は知らない
そして、二度目の覚醒は訪れた
自身の火が勝手にこの『岩石のような何か』に吸い込まれていく
その火はかつて自分が齎し、自分を傷け、肉親を焼いた